

## 就職活動を振り返って 『多くの人に会い、将来を語ってほしい』

東海旅客鉄道株式会社  
リニア開発本部 山梨実験センター  
西浦 彰洋 (C11)



まずは冒頭のこの場をお借りして、神戸大学工学振興会（以下 KTC）機関誌 90 号に私の様な者を選任して頂き、KTC 進藤様をはじめ、関係者様には厚く御礼申し上げます。甚だ僭越ではございますが、今回は在校生の方を対象に当時の学生生活や就職活動を振り返り、現在の仕事内容も踏まえながら私自身の想いを述べさせて頂く。

ここで改めて、私自身の学生時代を振り返りながら、自己紹介をさせて頂く。私は工学研究科において市民工学を専攻しており、2020 年に神戸大学を退職されます藤田一郎教授の下、流域防災工学研究室に所属していた。当時を振り返ってみると、私自身何故この研究室に所属できていたのか不思議で仕方ない。お世辞にも私自身、優秀な学生という言葉からは程遠く、学部 3 年生までほとんど教室の最後列で授業を聞かずに怠けており、単位取得成績の過半数が「可」という大変不真面目な学生であった。特に必修科目である流域防災工学の基礎にあたる水理工学の授業に関しては、藤田教授の担当講義であるにも関わらず、一度単位を落としている。更に再履修の態度の悪さも含めると、悪い意味で藤田教授には名前を覚えられていたことだろうと思う。

勉学に対してはあまり努力していない一方で、中学から続けているバレーボールには熱を入れており、体育会に所属していた。大学でもバレーボールを続

けていたのは、中学高校とエースとして結果を残してきたので、大学というレベルの高い所でも自分の功績を残したいという想いから体育会の門を叩いた。しかし、そんな想いとは異なり、大学 1 年時に右膝半月板損傷という全治 2 年の大怪我をしたこともあり、実力は大きく伸びずに常にベンチを温めていた。本当に大学 3 回生までは勉強もスポーツもパツとしないというより、努力をしていなかったなど今でも思う。

しかし、こんな私でも大学 4 年生になって思考回路が変わってきた。きっかけになったのは高校の同窓会である。私自身、一浪して神戸大学に入学した事もあり、同級生の中には企業に就職が決まっている者もいれば、海外留学を経験して帰国してきた者、芸能界オーディションを受けている者すらいた。何か私だけが高校時代から何も変わっておらず、時が止まっている危機感を感じたので、中学高校の部活動の頃に功績を残すことを求めて、考え方や行動を変え始めた。まず、研究に関しては、これまでちゃんと勉強してこなかった反省も踏まえて、学生に対して一定以上の成果を求める厳しい研究室で、これまで誰も取り組んでいないテーマで研究できる環境を求めた。いくつか研究室を訪問する中で、再履修などで逆に顔を合わす機会が多かった藤田教授とは研究室訪問時にもフランクに話すことができ、「うちは厳しいけどやれるか？」の問いには「はい！」と答えたことを今でも覚えている。まさか、再履修していたことがきっかけになるとは考えもしなかったが、今となっては良い思い出である。一方、部活動では後輩からの誘いもあり、選手を引退してから院生時まで歴代初となる監督としてチームを指揮することを選んだ。私自身怪我で苦しんだ時期もあることから、自分ができなかったことを後輩に託すような想いで 1 人 1 人に指導しながらも、考えの異なる部員をまとめて強い組織を築いてきた。当初、監督としてチーム運営の難しさを感じながらも、大学 3 年生まででは味わえない充実感がそこにはあった。この様に、これまでと全く異なる生活を送る事で、自分自身これま

で想像できないくらい人として成長できたと感じている。少し長くなったが、これが6年間に及ぶ私の大学生活である。

では、ここで就職活動の話に切り替える。私には就職活動から現在に至るまで一貫して社会人として働く上での目標がある。それは「生きた証を残す」ということである。言葉にすると仰々しいが、先述した通りこれまで研究や部活動において功績を残す事に拘って行動してきたので、同様の目標に沿って働くことが自分に合っていると考えた。その中でも私は、地図に残るくらいのビッグプロジェクトに携わり、自分の功績が未来永劫カタチに残るので、その目標を成し遂げられる会社を希望した。具体的には、街づくりをしている大手不動産会社、リニア中央新幹線のJR東海、あとは総合商社のインフラ部門でアフリカなどの道なき場所に道を作ることに興味を持ち、その様な会社を選考していた。そして、いくつか内定を貰う中で現在勤めているJR東海に就職する道を選んだ。

時が過ぎるのは早いもので入社7年目という中堅年次になり、これまで新幹線や在来線の保守、更にはリニア建設業務を経て、現在は山梨実験センターという部署で地元住民の方々への広報を始め、実験センター全体の取りまとめを実施している。転勤が多く、色々な業務を経験できる会社ではあるが、振り返ってみると就職活動時から抱いていたビッグプロジェクトに携わりながらも、色々な職場で何かしら功績を残しながら働ける今の環境には私自身満足している。むしろ、客観的に見ても私の様な人間に色々な経験を積ませてくれる会社には感謝の言葉しか出ない。勤めている私が言うのもおこがましいが、在校生の方も今は弊社を選考することを考えていなくても、是非選考することをお勧めする。

ここで、在校生の皆様に伝えたいアドバイスとしては、「多くの人に会い、将来を語ってほしい」ということである。偉そうにここまで語ってきたが、実は「生きた証を残す」ことを軸に初めから採用活動を実施していた訳でなく、当初はこれまでの環境から

変わることに抵抗もあったので「関西定住」などを優先して企業選びをしていたのが正直なところである。私の場合は、確かに高校の同窓会がきっかけであったが、それから他大学の学生やバレー部OB、更には色々な業界の社会人の方と出会い、その度に自己分析を繰り返し、ここまで自分の考えを洗練することが出来た。もちろん研究室に閉じこもって研究を進めることも大切だが、メリハリをつけて知らない世界に飛び込むことで新たな考えに気付くことも大きな財産になるので、是非皆様にも実践してほしい。

最後に、今回は私個人の就職活動を振り返り、想うところを述べさせて頂いた。私の考え方が全て正しいかと問われると、決してそんなことはない。むしろ暑苦しくて受け付けないという方がいて当然だと思う。ただ、今回の内容が1人でも多くの方の就職活動の一助になれると幸いである。